

徳大病院が治験

ALS新薬承認

徳島大学院医歯薬学研究所の梶龍児特任教授（臨床神経学）と和泉唯信教授（老年神経学）らの研究グループが開発した筋萎縮性側索硬化症（ALS）の新薬「ロゼバラミン」が24日、厚生労働省で製造販売が承認さ

れた。ALSの薬としては9年ぶりの新薬となり、国内3例目。製薬大手エーザイが新薬の製造を開始し、早ければ年内にも保険適応で利用できる見込み。

ロゼバラミンは、活性型ビタミンB12の一種メチルコバラミンを高濃度で利用した注射剤で、ALSの進行を遅らせる効能が認められた。

徳島大学病院は2017年11月から国内24施設の協力を得て、医師主導で発症1年以内の患者を対象に新薬の治験を実施。16週間の治療を行い、進行抑制効果を確認した。治験は現在も続いており、生存延命効果も明らかになっている。

（佐藤聡美）